

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271100434
法人名	社会福祉法人 かしま福祉会
事業所名	グループホーム あとむ苑
所在地 (電話番号)	松江市 鹿島町 北講武 885-6 (電話) 0852-82-9711

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	松江市 白湊本町 43番地		
訪問調査日	平成 19年 8月 20日	評価確定日	平成19年9月21日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 7 月 25 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.1 歳	最低 63 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江市立病院 鹿島内科クリニック 鹿島歯科診療所
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には民家が点在し、田畑に囲まれ、近くに神社や遺跡もある落ち着いた環境にある。特老とデイサービス施設が同じ敷地内にあり、温泉施設も隣接している。法人内の協力体制があり、医師、看護師との情報交換が密になされており、日常的にも24時間相談できる体制になっている。主治医や家族の意向があれば、終末期まで看取りたいという姿勢がある。開設4年を経て今迄の経験を踏まえながら日常的な外出支援、入浴を楽しむ工夫、センター方式導入の検討など、種々の改善を試みようとする姿勢があり今後が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への広報活動は、広報誌の発行や地域の行事への参加等で進みつつあるが、行政との連携による活動は今後の課題である。記録物の一元化は、今後センター方式を取り入れるとのことで、改善が期待される。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を基に、全職員で取り組んでいる。評価の意義も全職員が理解している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営会議では、苑の紹介や利用者の生活の様子、地域へのお願い、今後ホームで取り組みたいこと等を話し合い、次回に向けた議題を話し合っている。まだ2回しか開催されていないが、今後定期的に開催する準備がある。ボランティアが増えたり、地域との付き合いが広がるので、メンバーの拡大も検討している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情の窓口は書類に明記され、入居時に説明も行っているが、家族からの意見や苦情が少なく、今後「意見箱」の設置場所、家族への便りに意見用紙を添える、運営会議での意見を出しやすい形の模索等検討している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	以前から指摘されている案内板の設置がなされていない為、ホームの存在がわかりにくいままであるが、推進会議が開かれたりボランティアを様々受け入れたり、地域の行事に参加するなど連携が深まっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念がホームの玄関やホールに掲示されているが、表示する場所ごとに表現の違いがある。	<input type="radio"/>	理念を一本化し、パンフレットや玄関などに表示して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を話し合い、より具体的にしようとする日々の業務に反映する努力がなされている。「利用契約書」に理念とそぐわない文章がある。	<input type="radio"/>	理念と日々の実践にふさわしいわかりやすい文書の整備を検討願いたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、幼稚園、保育所の行事、地域の行事の参加など、地域との交流は増えつつある。	<input type="radio"/>	ホームの案内板がなくどこがホームなのか、どこから入れれば良いのかわかりにくい。地域の人々が気軽に訪ね易いような表示をし、交流を深めて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、前回の評価を踏まえ、全職員で自己評価を行っている。評価後の話し合いも行っている。	<input type="radio"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ2回行われたばかりだが、今後定期的に行う取り組みがある。今後、出席メンバーを広げる計画もある。	<input type="radio"/>	今後も定期的開催され、各メンバーからの意見が出易い様な会議の企画を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの「ブロック会(サービス事業所、居宅支援事業所で構成)」に出て情報を得たり、連携をとるようにしている。	○	ブロック会の中などで事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを伝え、地域密着型サービスの活動を広げていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の情報、近況、又写真を添えた便りを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付については入居時に説明したり、意見箱も置いている。運営推進会議で家族の発言の機会も設けている。	○	「苦情が出しやすい関係作りや意見箱の設置の工夫、又運営推進会議の家族の積極的な参加などが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は法人の考えの下、「職員がどの施設でも働ける様に」と、施設間の連携を考えた職員の施設間移動があったが、現在は固定化しつつあり、利用者のダメージを抑える努力もなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を適宜受ける体制がある。研修報告もレポートや会議の中で実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、職員個々では行われているが、法人、事業所としての働きかけはない。	○	サービス水準の向上の為にネットワーク作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時、又入居までの間に必要に応じ、何度かホームを見学して頂き、必要時自宅訪問も行っている。緊急入居の場合もあるが、ケースに応じ、出来るだけ利用者に混乱が生じない様、配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活暦を把握し、日々の言動を記録で共有、出来る範囲のことを、見守りながら支援している。利用者から学ぶことも多い。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で聞き出すようにしたり、カンファレンスで話し合われているが個人ファイルに残っていない。	○	把握している内容を個人ファイルに集中したり、センター方式の導入の検討がされているので活用して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の中に実際されている細かな配慮が記載されていない。	○	実際にされている細かい配慮や工夫を介護計画の中に盛り込んで欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間ごとに見直しや問題が起きた時には職員間や必要時には家族も交えて見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医との連携の取りやすさや看護師がそばにいるという安心があるので、利用者の状態が悪化していても家族の希望や主治医の了解があればターミナルケアの取り組みも支援したいという思いがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に意向を聞いて決定しているが地域的に医療機関が限られている。受診介助はされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にできるだけ面談し意向を聞いている。終末期にむけたマニュアル整備も検討されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域在住の入居者が9人中6人いるので、個人情報が漏れないように職員の会話やかかわり方に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	のんびりとその人のペースに合わせるように注意をしているが夕方は職員が帰ったり、事務業務があり併せにくいことがある。	○	夕方の業務内容や職員の勤務時間の検討がされようとしているので入居者中心にできるように対応して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力を見て出来る方には盛り付けや片付けをいっしょにされている。朝、夕食は一緒に職員が食べているが昼食については職員は自分の弁当を食べたり食事介助や片付けと、みんなで一緒に食事を楽しむというにはなっていない。	○	一緒に食べるという事はおいしいものをみんなで楽しむことに繋がるので休憩時間の取り方や職員の食事内容を検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の週3回入浴のペースであったが、最近は希望されれば回数を増やしたり夕方の入浴の支援ができるようになってきている。	○	お風呂は温泉が出るので、その特徴を生かし入居者の楽しみが増えるように希望されれば答えられる体制を努力していただきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑、掃除、食事関係、洗濯などその人の能力に応じて役割を持ってもらっている。	○	センター方式の活用で職員の見解を出し合おうとされている。入居者個々の支援について検討して欲しい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や状況によって散歩であったり買い物の同行、ドライブなどと外出の形を変えながら支援されている。	○	近くに散歩コースや田畑、車で5分ぐらいのところには海があつたり環境に恵まれている。集団ではなく2～3人の自然な形で外出が昨年より多く工夫されているので引き続き取り組んでいただきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや周辺施設との連携があり、利用者が出て行っても連絡が入りやすい。出て行く気配があれば声掛けなどの配慮をして鍵をかけないように取り組みがされている。	○	玄関は開放され居室からでも簡単に外に出ることが出来る施設である。入居者で外に出やすい方がおられるがその日の気分など職員が把握し一緒に外出するなど鍵をかけなくてもいいように支援されている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	食糧や水の備蓄はまだないが年2回の避難訓練がされている。又グループホームや周辺施設が地域の避難所にもなっている。	○	火災だけでなく自然災害のための食糧の備蓄についてどう対応するかも関係機関や地域全体と協同して検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握が出来ている。又健康診断も定期的に受け栄養状態の把握や体重測定もされ管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花を飾り自然に安らげるようにされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものや家族の写真、絵手紙などが持ち込まれ心地よさに配慮されている。		